

# 新型コロナワクチンに関するQ & A

2021. 6. 21 版

このQ & Aは、北海道科学大学で職域接種を実施するにあたり、学生の皆さんが安心してワクチンを接種していただけるよう、本学薬学部の専門家チームが作成したものです。

ワクチン接種に関する疑問・不安は、このQ & Aをお読みいただき、解決してください。それでも分からないことがあれば、以下の相談窓口にお問い合わせください。専門家チームの先生方から回答していただけます。

相談窓口：<https://forms.gle/tHeGy4EVip6dmhV47>

## ①ワクチンについて

Q：今回の職域接種で使用する新型コロナワクチン（モデルナ社製）とは、どんなものでしょうか

A：下記を参照してください。

武田／モデルナ社の新型コロナワクチンについて（厚生労働省ホームページ）

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine\\_moderna.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_moderna.html)

Q：今回の職域接種でファイザー社製のワクチンを接種したいが選べないのでしょうか

A：選べません。ワクチンを受ける時期に供給されているワクチンを接種することになります。今回の本学におけるワクチン接種は、すべてモデルナ社製のワクチンとなる予定です。モデルナ社製で1回目を接種した場合、2回目も同じワクチンを接種する必要があります。

Q：ワクチン接種後に新型コロナウイルスに感染することはないですか

A：今回接種するワクチンは新型コロナウイルスへの感染を完全に防ぐものではありません。しかし、感染した後の種々の症状の出現（新型コロナウイルス感染症の発症）の抑制効果は約94%と報告されています。

《詳しい説明》

ワクチン接種後でも新型コロナウイルスに感染する可能性はあります。

武田／モデルナ社の新型コロナワクチンは、通常、4週間の間隔で2回接種します。臨床試験において、本ワクチンの接種で十分な免疫が確認されたのは、2回目を接種してから14日以降となっています。また、ワクチンを2回接種した場合の有効率は約94%と報告されており、ファイザー社の新型コロナワクチン同様、100%の発症予防効果が得られるわけではありません。

**PMDAの審査報告書（武田／モデルナ社のワクチン）**

[https://www.pmda.go.jp/drugs/2021/P20210519003/400256000\\_30300AMX00266\\_A100\\_2.pdf](https://www.pmda.go.jp/drugs/2021/P20210519003/400256000_30300AMX00266_A100_2.pdf)

Q：ワクチンの効果はどれくらい持続しますか

A：今回の職域接種で使用される新型コロナワクチンの治験は、昨年夏以降に実施され臨床試験や接種が始まってから時間があまり経過していないことから、効果の持続期間については明らかになっていません。今後の情報が明らかになるのを待つ必要があります。

モデルナ社のワクチンの治験データ（第3相試験）では、接種後、体内で作られた中和抗体の持続は平均6ヶ月程度とされています。追加接種の必要性についてはまだ統一見解がありませんので、最新の情報は、厚生労働省ウェブサイト等を参照してください。

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine\\_moderna.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_moderna.html)

Q：大学での職域接種と、自治体等が行っている接種を組み合わせることはできますか

A：同一の接種会場で2回の接種を行うようにしてください。したがって、既に自治体等が行う接種で1回目の接種を受けている場合は、本学の職域接種に申し込むことはできません。本学の職域接種以外の予約を行っている方で、国や市町村に接種を申し込んで予約がとれた場合には、**どちらかのキャンセルを必ず行ってください。**

Q：新型コロナウイルスに感染したことのある人は、接種することはできますか

A：新型コロナウイルスに感染した方もワクチンを接種することができ、現時点では通常通り2回接種します。むしろ接種を推奨している国もあり、これは、このウイルスが一度感染しても再度感染する可能性があることと、自然に感染するよりもワクチン接種の方が新型コロナウイルスに対する血中の抗体の値が高くなることが報告されているからです。ただし感染後や治療後は、接種まで一定の期間をおく必要がある場合もありますので、いつから接種できるか不明な場合は、主治医にご確認ください。なお、事前に感染したかどうかを検査して確認する必要はありません。

Q：アレルギーがありますが接種できますか

A：他のワクチンや食べ物でアレルギーを起こしたことのある方でも、多くの場合は、新型コロナワクチンの接種を受けることができます。

予診票にアレルギーの情報をできる限り記載のうえ、事前にかかりつけ医に相談するか、もしくは接種当日、医師に相談ください。

ただし、このワクチンに含まれている成分で、過去に重度の過敏症のあった人は、接種できません。

《詳しい説明》

下記のサイトを参照いただき、接種可能かどうか確認してください。

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine\\_moderna.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_moderna.html)

基礎疾患によっては、新型コロナウイルス感染症重症化のリスクになります。そのため、過去にワクチンへのアレルギーの既往がなければ、基礎疾患がある場合にはむしろ積極的に接種していただくのが望ましいとされています。現時点で、ワクチン接種時に服用していて問題となる治療薬はありませんが、基礎疾患/持病があり心配な場合は主治医もしくはかかりつけ薬剤師にご相談ください。

## ②接種後の副反応について

Q：新型コロナウイルスワクチンによる副反応にはどのようなものがありますか

A：注射した部分の痛み、疲労、頭痛、筋肉や関節の痛み等がみられることがあります。

これまでに報告された接種直後に現れる可能性のある副反応は、アナフィラキシーと言われる急性のアレルギー反応と血管迷走神経反射です。また副反応は、接種直後よりも接種翌日に痛みを感じる方が多いです。接種後5～7日ほどしてから、痛みや腫れなどが起きることもあります。

接種直後のショックやアナフィラキシーの発生した場合の対策として、

○接種後15分までは必ず接種会場内の指定の場所で座って様子を見てください。

○接種後30分までは学内の周囲に友人などの人がいる場所で様子を見てください。

○過去にアナフィラキシーを含む、重いアレルギー症状をおこしたことがある方や、採血等で気分が悪くなったり、失神等をおこしたことがある方は、接種後30分まで接種会場の指定場所で座って様子を見てください。

血管迷走神経反射は、ワクチン接種に対する緊張や、強い痛みをきっかけに、立ちくらみがしたり、血の気が引いてときに気を失うことがあります。誰にでも起こる可能性がある身体の反応で、通常、横になって休めば自然に回復します。

なお、用いるワクチンは、新しい種類のワクチンのため、現時点で明らかになっていない症状が出る可能性は否定できません。

ご心配な場合は、接種会場内での観察時間の延長も可能です。万が一、接種会場を出たあとも、キャンパス敷地内で体調不良となった場合は、近くの教職員に声をかけてください。すぐに医務室等の職員が対応します。万が一重篤な副反応があった場合に備えて、医師も会場におりますし、対応するための薬剤も準備しています。また近隣病院（手稲溪仁会病院）への協力要請も行っていますので安心してください。

もし、キャンパス外や帰宅後に重篤なアレルギー様症状が出現した場合は、救急車を呼んでください。救急車を呼ぶほどではない接種後の原因不明の体調不良は、ワクチンの副反応の可能性もあります。北海道ワクチン接種相談センター（0120-306-154（フリーダイヤル）：受付時間：9時00分～17時30分（土曜日・日曜日・祝日も受付）または医務室に相談していただくか、日常生活に支障を来す状況であれば、最寄りの医療機関を受診してください。

モデルナ製ワクチンの副反応に関する一般的な情報は以下の通りです。参考にしてください。

COVID-19 ワクチンモデルナ（武田薬品）を接種した方へ

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000782965.pdf>

《アナフィラキシーについて：発生頻度の詳しい説明》\*

今回本学で使用予定のモデルナ社製の新型コロナウイルスワクチンに関しては、国内で6月4日までに約19万回の接種が行われ、接種後の死亡例はありませんでした。また急性のアレルギー反応であるアナフィラキシーも、5月30日までの接種で国際基準（ブライトン分類レベル1～3）に該当する事例はありませんでした。

\* 第 61 回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、令和 3 年度第 9 回薬事・食品衛生審議会薬事分科会医薬品等安全対策部会安全対策調査会（平成 3 年 6 月 9 日）の資料より抜粋

Q：ワクチン接種後の副反応（痛みや発熱）に対して、市販の解熱鎮痛剤を飲んでも良いですか

A：市販の解熱鎮痛剤は使用可能です。特にアセトアミノフェンを成分とするものをお勧めしますが、売り切れなどで手に入らない場合は、ほかの解熱鎮痛剤でもかまいません。ただし妊婦に関してはアセトアミノフェンのみを服用してください。

また、副反応の予防として予め解熱鎮痛剤を服用することは推奨されていません。

（アセトアミノフェン以外の消炎解熱鎮痛剤（NSAIDs）は、妊娠初期には流産を増加させ、妊娠中期以降は胎児動脈管の早期閉鎖を起こすため妊娠中の使用は禁忌になっていますので、妊婦の方はご注意ください。アセトアミノフェンは胎盤を通過しますが、常用量では妊娠中に安全に使用できることが世界的に知られている薬です）

Q：副反応のためのアセトアミノフェンを成分とする薬やその他の解熱鎮痛剤の配布はありますか

A：ありません。必要になった場合は近くの薬局やドラッグストアなどで購入するか、医療機関を受診して入手してください。

Q：ワクチンを接種した場所の腫れ、痛み、痒みはどうしたらよいですか

A：腫れや痛み、痒みがある場合は、まずその場所を冷やしてください。痛みが強い場合には解熱鎮痛剤を服用してください。痒みについては冷やしても軽減されない時は抗ヒスタミン剤と言われる薬を塗ったり、内服することもできます。

### ③その他

Q：ワクチンを接種した日は、お風呂に入れますか

A：ワクチンを接種した日にお風呂に入っても構いません。ただし、注射した部位を強くこすらないようにしましょう。ワクチンを接種した後に、入浴した場合としなかった場合での、免疫のつき方や、副反応の違いなどを比較した研究はありませんが、入浴により何か不具合が起きる可能性は低いと考えられます。

Q：ワクチン接種後に運動をしてもいいですか

A：接種当日の激しい運動は避けてください。また、過度の飲酒も避けてください。

厚生労働省の資料はこちらです。

<https://www.mhlw.go.jp/content/000782715.pdf>

Q：新型コロナウイルスワクチンの効果は、接種後どの程度経過したら出てきますか

A：臨床試験において、本ワクチンの接種で十分な免疫が確認されるのは、2回目の接種を受けてから14日以降です。現時点では感染予防効果は十分には明らかになっていませんのでワクチン接種にかかわらず、適切な感染防止策を行う必要があります。

Q：新型コロナウイルスワクチンを接種したら今後マスクは不要になりますか

A：ワクチンを接種した方は、新型コロナウイルス感染症の発症や重症化を高い確率で予防できることは解ってきましたが、ワクチンを接種した方から他人への感染をどの程度予防できるかはまだ分かっていません。また、ワクチン接種が徐々に進んでいく段階では、多くの方が予防接種を受けている状況ではないため、ワクチンを接種した方も接種していない方も、共に社会生活を営んでいくこととなります。このため、引き続き、感染予防対策を継続していくことが重要です。マスクの着用も継続してお願いします。